

柔道における固め技の変遷と他の格闘技との比較

Change of groundwork techniques at judo and comparison with other combative sports

1 K07A014-7 和泉沢有祐

指導教員 主査 小野沢弘史先生 副査 太田章先生

【序章】

近代柔道では投げ技が主体となっており、固め技はルールからみても不利であるといわざるを得ない。また実際の試合においても決まる場面が少ないといえる。しかし日本人選手の中には固め技を得意とする選手も少なからずおり、柔道においてその存在は無視できるものではない。

柔道において固め技がどれほど有効なものであるのか。また他の格闘技でのいわゆる「寝技」と柔道の固め技を比較して柔道の固め技がどれほど優れているのか、あるいは劣っているのか、その違いなどについて考察する。

【第一章】

第一章では現代の柔道における固め技の重要性について考察する。実際のデータを踏まえ、現代の柔道において投げ技と固め技どちらで勝負が決することが多いのか、また現行のルールは講道館柔道試合審判規定と国際柔道連盟試合審判規定と二つあるが、その中で固め技がどのように扱われているのかを踏まえたうえで現代の柔道において固め技がどれほど軽視されているかについて考察する。

【第二章】

第二章ではルールの変遷について考察する。近年、国際的な柔道の普及・発展に伴い多数のルール変更があった。それに限らずとも講道館が創設され、柔道ができた時代から現在のルールに至るまでに幾度となくルールは変更されてきた。現代の柔道に至るまでに講道館が創設された時代からどういったルールの変遷・技の変遷があったかを特に固め技三種類、抑え込み技、絞め技、関節技の観点に絞って考察する。

【第三章】

第三章では他の格闘技と比較して柔道の固め技とどういった違いがあるのかを考察する。昨今では総合格闘技がテレビ放映により人気を博し、さまざまな格闘技を習得した選手が参戦することが多くなってきた。柔道選手も例外ではなく参

戦することが多く、他の格闘技と比較してみられることも多くなった。その中で寝技に焦点を絞り、例として一般的に寝技と呼ばれるものを持つ格闘技としてブラジリアン柔術、サンボ、合気道、古流柔術などを挙げ、それらのルールと特徴などを柔道における固め技と比較する。

【第四章】

第四章では固め技を主体にした柔道について考察する。柔道は加納治五郎が講道館とともに創設したものであるが、加納は柔術を習得してその柔術をもとにして柔道を立ち上げたとしている。柔術にはさまざまな流派があるがその中でも固め技を主体にしたものも多く講道館創設当初は現在よりも固め技への重点度が大きかった。現代の柔道では固め技はあまり重要視されていないが柔道の武道としての歴史からみても、試合に勝つための手段としても固め技は無視できない。またかつて流行していた高専柔道では現在でも七帝大戦が行われており文化的な面及び技術的な面でも興味深い点が多々ある。また現在および過去に活躍していた選手で固め技を得意としていた選手が実際に用いていた技、及び試合の中でみられる固め技について考察する。

【終章】

固め技は「見る」という観点において、投げ技と比較してみるとルールや競技をあまり深く知らない観戦者からすれば、一般的に地味である上に、何をしているのか、どちらが優勢なのかなどわからないことが多くそれゆえにあまり理解されないことが多い。しかし勝負を決する手段としてまた柔道のルールからみても固め技はなくてはならないものであるし有効なものであると私は考える。これまでみてきたデータや資料をもとに柔道において固め技がどれほど有効なものであるか、また他の格闘技と比較したときにどれほど優れているのかについて私の考えを述べる。